

平成20年（2008年）1月1日発行

第2期就任 柳澤章 学長 に聞く

日本工業大学の魅力を充実させる

学生諸君と共により良い学園を

本学では、任期満了に伴う学長選挙が行われ、その結果を受けて理事会は、次期学長に柳澤章現学長（64歳）を再任した。任期は、平成19年12月20日（木）から平成23年12月19日（月）の4年間。なお、原利次・渡辺勝彦両副学長も、同任期で再任された。第2期就任に当り、企画室（広報）では学長に今後の抱負などを取材した。

問 次期学長に就任おめでとうございます。平成15年12月に、新学長として就任して以来、「先頭に立つて行動する学長」ということで、積極的に大学改革に取り組み、日本工業大学は、この4年間で大きく変わりました。主なものだけでも、学内の運営組織に新体制を導入、学業成績優秀者を評価する新奨学金制度の設定、専門職大学院の開設、学修支援センター・英語教育センター

の立ち上げ、工学集中コース・工学発展コースの導入、各学科3コースの設置など、次々と改革がなされています。平成17年に文部科学省の「特色ある大学教育支援プログラム（特色GPE）」に「7つの工房による力強い学び」の育成として、2つの

例えは、工学集中・工学発展コースの導入は、普通高校出身者を積極的に受け入れ、彼らが安心して専門課程に進める様に、工学集中コースを設け、また、工業高校出身者のためには、さらに進んだ学習のための工学発展コースを設けました。2年次の後半には、2つの

今後は、これを充実させていきたいと思っています。1 充実した最新の教育・実験・研究施設 これは、必須事項です。私が教務部長の時代に、特色ある教育の明確化・充実を図る措置として、総額1億円の予算措置を設けました。いわゆる「1億円プラン」です。これを引き継いだ予算配分をしていきたいと思っています。

平成17年度に文部科学省の「特色GPE」に採択された様に、本学は「工学教育」に力を入れています。今後は一人ひとりの個性を伸ばす工学技術教育を進めていきたいと思っています。時代に対応した学科新設・再編は、重要な課題

問 学長は、先見性と実行力がある様に見受けられます。また、ベキニット社という大学発ベンチャーを立ち上げた。重要な課題

本学の教育環境を活かすのには、学生諸君の意欲が重要です。日本工業大学の五つの



100周年記念行事を好評かつ無事に終えることができ、学園第二世紀の第一歩となる2008年を迎えた。左は、100周年記念シンボルマーク。無限を表す「メビウスの環」をモチーフとしてデザインされている。

柳澤学長プロフィール 昭和41年3月千葉大学工学部機械工学科卒業、同43年3月に同大学院工学研究科機械工学専攻修士課程修了、4月から本学・機械工学科に助手として勤務。専門分野は生産技術に関する研究・開発ならびに複合材料に関する研究である。学長の開発した画期的な金属繊維製造技術をもとに、本学とベルギーのスチールワイヤー製造会社であるベカルト社が共同出資し、平成9年にベキニット（株）を設立したが、現在、取締役会長の任にある。平成15年12月20日（土）に学長就任後は、積極的に大学改革に当って来た。



柳澤 この4年間、いろいろ努力して来たつもりですが、そうしたこと、本来やらなければならないことを鋭意実施したことで、改革の本番はこれからだと思っています。

柳澤 「日本工業大学の魅力」を五つにまとめました。5 一人ひとりの個性を伸ばす工学技術教育

柳澤 「日本工業大学の魅力」を五つにまとめました。5 一人ひとりの個性を伸ばす工学技術教育

●年頭所感●
第2世紀へ更に飛躍を!



理事長 大川 陽康

第2世紀に向かって踏み出す新しい年となります。大学では、昨年12月に任期満了に達した柳澤学長が再任され、次期任期4年間で精力的に勤めてくれることになりました。新しい時代に即して、

れを活かすという視点を検討されてきたものです。これから、その実現に向けて、より一層の努力を傾注し、内容を充実させてまいります。また、駒場にある付属中学校・高等学校でも大

魅力を活かすなど、本学に学ぶ学生にとって、嬉しいことだと思いが、本学では近年、学部・学科の新設や再編が盛んでありますが、本学ではどの様に考えていますか。今後、大きな改革の予定はあるのでしょうか。

柳澤 時代に対応した学科新設も含めて、再編を行うことは、必要なことだと思いますし、重要な課題だと思っています。この2年位、考え続けてきました。最近、具体案がまとまりましたので、先日、教授会で案としてお話ししました。これから、実現に向けて努力していきたいと思っています。

柳澤 学長は、先見性と実行力がある様に見受けられます。また、ベキニット社という大学発ベンチャーを立ち上げた。重要な課題

本学の教育環境を活かすのには、学生諸君の意欲が重要です。日本工業大学の五つの

昨年、学園創立百周年という記念すべき年でありました。百周年を記念して、さまざまな事業や行事が行われましたが、皆様のお陰をもちまして、全て滞り無く実施することができました。今年は、いよいよ学園

大学も変わっていくというところで、学科新設・改組が検討されてまいりました。この程、具体案がまとまりました。今回の改革案は、建学の理念に基づき、大学設立以来40年の歩みを振り返り、本学の強みを見極め、そ

大きな変革がなされます。平成20年度から、校名が変わり、中学は「日本工業大学駒場中学校」、高校は「日本工業大学駒場高等学校」となります。高校では従来の5学科に加え、普通科（男女共学）を新設、全6学科の学校として新たにスタートします。しかしながら、これは時代に即した変化であり、学園の教育理念が変わるものではありません。「ものづくりの感動体験を生かしながら、卒業後の多様な進路希望に応える」教育運営という基本を踏まえ、更に一人ひとりの希望が叶えられる学校運営を目指していくということです。

本学園は、1907年に実践的な技術教育を行うということで発足しました。それから100年、スタイルは変わっても、一貫して実践的工業教育

を貫いてきました。スタイルを変えたというのは、その時、その時の教育・研究に対する「実験」の方法を変えたということでもあります。戦後、新制高校になってから、ものづくりには、大学教育が必要であるということ、日本工業大学を設立致しました。また、学園創立100周年を記念し、社会人教育のために、夜間に勉強する専門職大学院を設けました。学園創立80周年に、「実験」の道具として設置した工業技術博物館の収蔵機器が、この程、文化庁審議会

「登録有形文化財」にノミネートされました。この歩みを更に進めるために、決意を新たに、一層の飛躍を目指して、今までに蓄積された力を大いに発揮していくことはありませんか。

柳澤 学長は、先見性と実行力がある様に見受けられます。また、ベキニット社という大学発ベンチャーを立ち上げた。重要な課題

日本工業大学 平成20年度入試日程

日本工業大学 工学部

●機械工学科 ●電気電子工学科 ●建築学科 ●システム工学科 ●情報工学科

	出願期間	試験日	試験内容	合格発表	入学手続締切
一 般 入 試	1月 7日～ 1月26日	2月 2日 2月 3日 2月 4日 (受験日自由選択制)	・数学Ⅰ、Ⅱ ・物理Ⅰ ・英語Ⅰ、Ⅱ、リーディング、 オーラル・コミュニケーションⅠ ・上記のうちから任意の2科目を選択	2月 9日	2月18日
センター利用入試A B	1月 7日～ 2月 2日 2月18日～ 3月12日	数学・理科・物理の3教科14科目のうち2教科以上選択して、 かつ1教科あたり1科目以上を選択、受験		2月 9日 3月21日	2月18日 3月28日
社 会 人 入 試	1月 7日～ 1月26日	2月 3日 書類審査及び面接 (小論文や口頭試問を実施する場合もあります。)		2月 9日	2月18日
帰国子女入試	1月 7日～ 1月26日	2月 3日 書類審査及び面接 (作文試験を実施する場合もあります。)		2月 9日	2月18日
AO入試(第4期)	3月 1日～ 3月14日				
	AOエントリー入試	エントリー期間：1月15日～ 3月 5日 選考方法：面談および提出書類と書類審査 申込み期間：平成20年3月上旬まで随時		3月21日	3月28日
	AOコーディネータ入試	選考方法：面談および書類審査 (課題を課す場合もあり)			

★4月から新3年生になる方・これから大学受験を考えている方は、3月22日(土)に開催するオープンキャンパスに、ぜひご参加ください。

日本工業大学 大学院工学研究科 博士前期課程・博士後期課程
●機械工学専攻 ●電気工学専攻 ●建築学専攻 ●システム工学専攻 ●情報工学専攻

本学で先端技術研究の取り組みを

社会人大学院生 募集! (日本工業大学 社会人特別選抜)

■平成20年度 大学院 社会人特別選抜入試日程

	出願期間	試験日	試験内容	合格発表	入学手続締切
二次募集	2月14日～2月21日	2月28日	書類選考・面接	3月5日	3月14日

願書のご請求およびお問い合わせ先: 教務部教務課 大学院入試係 TEL: 0480-33-7507(直通)

願書のご請求およびお問い合わせ先

〒345-8501 埼玉県南埼玉郡宮代町学園台4-1 日本工業大学教務部 入試室

☎0120-250-267 TEL: 0480-33-7676(直通)

URL: http://www.nit.ac.jp/ E-mail: nyu-shi@nit.ac.jp

第18回教育改革シンポジウム 魅力ある大学づくりのために ——学園21世紀若手懇談会報告——

07年度学会賞を授与された日本人でこの賞を授与したのは松木教授が初めてである。同教授は、航空宇宙技術研究所(現・宇宙航空研究開発機構)において、航空エンジン研究・開発プロジェクトのリーダーとしてキャリアを積んでおり、その実績が評価された。中でも卓越した実績は、昭和46年から開発を始めた日本初のターボジェットエンジンFJR-710である。同エンジン4基を主翼上面に搭載した実験用短距離離着陸機「飛鳥」は、昭和58年、飛行に成功した。このエンジンに注目したロールスロイス社は、飛行機用エンジンの共同開発に関心を示し、後に、これはV2500ターボ・ファン・ジェット・エンジンとして結実、今も数千台が、世界の空を飛んでいる。

第18回教育改革シンポジウム「魅力ある大学づくりのために」学園21世紀若手懇談会報告」が、11月9日(金)夕刻、情報工学科棟5階会議室で開催された。学園創立100周年記念事業のひとつとして「学園21世紀若手懇談会」が企画したものである。同懇談会は、学園の今後100年にわたる展望を若手教員の立場からまとめ、報告することを目的とする。シンポジウムは、2年間取り組んできた成果を、全教職員に広く紹介し、学園が取り組むべき教育改革について、提言しようとするものである。

第1部では、まず委員長中里裕一(機械工学科准教授)が、同会の活動および成果の概要を報告。つぎに学園の入口側(学生募集)の状況調査として、委員の機械工学科・丹澤祥晃准教授から、具体的な18歳人口の減少傾向や、工学部離れ

の状況の詳細な報告がなされた。つぎに、学園内(教育内容)の状況調査として、委員の情報工学科・田村仁講師より、大学・専門職大学院・専門学校の現状などが報告され、建学の精神を再確認し、本学の特色である実学志向の工学教育の重要性が、他大学との比較の

うえで示された。続いて、委員のシステム工学科・伴雅人准教授が、出口側(就職)の状況調査を報告した。本学の就職状況や、産業界が求める理工大生像などについて、報告があり、情報収集およびそのための組織づくりの必要性が説かれた。さらに、日本工業大学付属中学校・六年制主事の大塚勝之助論より、付属中学・高校を取り巻く状況が説明され、来年度「日本工業大学駒場中学・駒場高等学校」に校名変更するに至った経緯と、今後の展望が披露された。

第2部においては、基調講演として幹事の機械工学科・神雅彦准教授より、「ホンものづくり」と題した大学のブランドデザイン案が公開され、1.工業高校再生プロジェクト、2.新ものづくり教育/研究(ホンものづくり教育・研究と企業理念との調和による社会貢献)、3.新ものづくりエンジニアの輩出(大学と企業理念との調和・融合)、などの具体策が示された。

この基調講演をもとに、参加者から講演者への質問やコメント、活発な討論がなされた。シンポジウムは予定時間を大幅にオーバーし、司会の佐藤彰副委員長

学生が参加する学園創立100周年記念行事 「シンボルマークコンテスト」最優秀作品

10月20日(土)に百年記念館マルチメディア教室にて表彰式が行われ、左記作品が最優秀賞に選ばれた。

- ゴミ関係：建築学科3年山口彩子
「禁止」や「止めろ」などの言葉は、学生には逆効果で、「I LOVE灰皿」という言葉で喫煙場所が好きなになれるようなキャッチフレーズにした。
- 自転車関係：建築学科3年高麗俊
「マナーの意識」をハートで表現し、中央の一筆書きから自転車の小さなハート(マナー)を周りの学生に促すイメージでデザインにした。これら最優秀作品により、ひとりでも多くの学生にマナーを遵守してもらうためのシンボルマークの活用方法について、学生支援課まで意見を聞かせて欲しい。

ISO-7年度環境目標達成状況 (2006年10月～2007年9月)

ISO-8年度の活動に向けて

環境マネジメント活動により、環境目標17項目中14項目で目標を達成している(下表参照)。

ISO-8年度には、その成果を継続、発展させるとともに、「世界各地で進む環境対策」(平成18年10月)講師・黒田聡氏(情報システムエンジニア)による「環境特別講演会」を開催し、環境における社会的責任を認識し、工業教育の理想を追求する本学の教育環境の中で、環境教育・研究の発展の進展を掲げ、具体的な目標の達成に向かって活動を進めていく。

平成18年10月からスタートしたISO-7年度の活動の一端を紹介する。

環境特別講演会の開催

情報流通基盤の革新」(平成19年1月19日)講師・黒田聡氏(情報システムエンジニア)による「環境特別講演会」を開催し、環境における社会的責任を認識し、工業教育の理想を追求する本学の教育環境の中で、環境教育・研究の発展の進展を掲げ、具体的な目標の達成に向かって活動を進めていく。

来場者数・約200名

シンポジウムの開催

来場者数・約100名

「2007・NEW環境展」への出展(平成19年5月22日～25日)

研究発表・体験による環境教育。キャンパスのエコミュージウム化。

「QRコード」を携帯電話で読み取り、環境情報を閲覧」設置、パネル操作による環境情報閲覧」

来場者数・約16万人

環境分野研究奨励助成金制度による研究の推進、実践

①マイクロバブルを用いた汚水処理の実証実験

②学内環境モニターの開発と環境計画

③金属の熱膨張を用いた動力生成装置の開発

④キャパシタ・蓄電システム車載の電気自動車の研究

来場者数・約40名

ISO-7年度 環境目標の達成状況(2006年10月～2007年9月)

(評価) ○…達成、×…未達成

環境目的	環境目標	主要実績	評価
1 持続的発展が可能な社会の実現を担う人材・高級科学技術者の育成	持続的発展が可能な社会の実現を担う人材育成のための環境教育プログラムの策定	①環境教育プログラムをテーマとしたシンポジウムの開催 ②大学案内「環境が学べる」ページの作成	○
2 持続的発展が可能な社会の実現に資する人材・高級科学技術者の育成	環境教育プログラムの実践による持続的発展が可能な社会の実現を担う人材の育成	環境関連科目38科目を通じ、延べ7972名に実施	○
3 体験的環境教育の推進	①エコ・ミュージアムの整備及びQRコード(環境情報発信)による体験的環境教育の普及・推進 ②学外における体験的環境教育の実施	①エコ・ミュージアムの整備 ②環境情報(QRコード)の拡大、発信 ③エコ・ツアーの実施	○
4 環境に関する研究の推進	①教職員、学生の協働による研究の推進 ②環境に関する研究の推進	①「環境分野研究奨励助成金」制度による研究推進 ②研究論文、共同研究等の刊行物での公表 ③卒業研究等における環境関連テーマの推進	○
5 環境コミュニケーションの推進(環境関連情報の発信拠点としての役割と環境マインドの醸成)	環境関連情報の発信とコミュニケーションを通じた環境共生意識の啓発・普及を図る	①環境特別講演会の開催(学生・市民へ公開) ②ホームページ等による環境情報発信 ③「2007NEW環境展」への出展 ④本学環境関連施設見学会の実施	○
6 持続的発展が可能な社会の構築に向けた社会・地域との連携、協働の推進	自治体、諸機関との連携・協働、他大学との交流を図る	①富田町との連携、協働 ②スターリングテクノロジーの開催 ③他大学との交流 ④私立大学環境保全協議会との連携	○
7 環境教育(学生環境推進委員会への支援・コミュニケーションを回り連携を深め、準構成員である本学学生の環境意識を向上させ、環境教育の充実を目指す)	学生環境推進委員会への支援及び学生とのコミュニケーションを回り連携を深め、準構成員である本学学生の環境意識を向上させ、環境教育の充実を目指す	学園祭への参加、講演会、リサイクルショップの開催、学内のばり設置	○
8 電力使用量の削減	予想使用量の1%削減	予想使用量の1.9%減少	○
9 ガス使用量の削減	予想使用量の1%削減	予想使用量の0.6%減少	○
10 上水使用量の削減	予想使用量の1%削減	予想使用量の0.3%減少	○
11 紙使用量の削減	予想使用量の1%削減	予想使用量の1.4%増加	×
12 廃棄物の削減・適正管理	予想排出量の1%減量化、一般廃棄物の資源化率60%以上	予想排出量を2.9%削減、資源化率90.1%	○
13 緑地整備・保全	長期計画に基づく整備・保全	緑地の維持管理、食堂ダイニング緑化	○
14 グリーン調達の積極的な推進	グリーン調達率の向上(関連会社からの購入品調達率55%以上)	グリーン調達率38.6%(金額ベース)、44.9%(数量ベース)	×
15 安全・環境安全な化学物質の使用・保有管理および化学廃棄物の保有・排出管理への改善	安全性向上にむけた施策の策定、実施	講習会、保有管理量の調査実施	○
16 教育・研究施設等の効率的・効果的活用及び管理・運営	施設等実地調査の実施と改善及び施設マネジメント体制の構築検討	教育系部門等の実地調査・改善推進	○
17 労働安全衛生法に基づく安全衛生の向上	安全衛生管理体制の構築	安全衛生管理体制の整備	×

来年度(4期生)の入試始まる

12月1日(土)に本専門職大学院の来年度学生(4期生)の第1回入試が実施された。

1年4学期制で実務に役立つ高度な専門知識が修得できることを大きな特徴とする本大学院の概要については、大学院案内等の印刷物やホームページでも紹介しているが、今回の受験者は9月と11月に開催したオープンキャンパスにも参加した人々であった。

昨年度からオープンキャンパスでは、説明会、特別講演、授業見学、キャンパスツアーのほかに、本大学院修了生と在学生によるパネル討論会「本大学院で何

を学び、どう活かすか」を加えたが、本年度はさらに修了生による特定課題研究(修士論文に代わるもの)の発表も加えたため、本大学院に関する理解が一段と進んだものと思われる。

本年度は、別掲のようにあと2回のオープンキャンパスが開催され、その後に第2回、第3回の入試の募集と試験が予定されている。そこで、また多くの方々の参加があり、受験へとつながることを期待して、来年度の改訂カリキュラムに基づく新しい科目一覧、シラバス等、各種資料を整えるなど、準備を進めている。さて、3期生は必須科目

2007年度 専門職大学院 オープンキャンパス日程

	第3回	第4回
1/12(土)	2/9(土)	
説明会、公開授業、パネルディスカッション キャンパスツアー 等を予定 ※各日も13:00開始		
◆参加ご希望の方は、事前にお申し込みください ◆お申し込み、お問い合わせは・・・		
日本工業大学 専門職大学院 TEL. 03-3511-7591 FAX. 03-3511-7594 E-mail: mot@kanda.nit.ac.jp		

2008年度 専門職大学院 入試日程

	第2回募集	第3回募集
出願期間	平成20年1/15(火)～ 平成20年1/29(火)	平成20年2/12(火)～ 平成20年2/26(火)
試験日	平成20年2/2(土)	平成20年3/2(日)
合格発表日	平成20年2/6(水)	平成20年3/5(水)
入学手続締切日	平成20年2/15(金)	平成20年3/14(金)

頻繁にキャンパスを訪れて、各自の具体的な個別課題の研究進捗状況を報告し、アドバイスを受けている。

3月中旬の発表会までに全員揃って研究成果をまとめ上げ、技術経営修士(専門職)の学位を受けられるよう期待している。

(教授 松野建二)

「第2回日本工業大学にあるべき環境教育を考えるシンポジウム」(平成18年12月21日)

来場者数・約100名

「2007・NEW環境展」への出展(平成19年5月22日～25日)

研究発表・体験による環境教育。キャンパスのエコミュージウム化。

「QRコード」を携帯電話で読み取り、環境情報を閲覧」設置、パネル操作による環境情報閲覧」

来場者数・約16万人

環境分野研究奨励助成金制度による研究の推進、実践

①マイクロバブルを用いた汚水処理の実証実験

②学内環境モニターの開発と環境計画

③金属の熱膨張を用いた動力生成装置の開発

④キャパシタ・蓄電システム車載の電気自動車の研究

来場者数・約40名

ISO-7年度 環境目標の達成状況(2006年10月～2007年9月)

(評価) ○…達成、×…未達成

環境目的	環境目標	主要実績	評価
1 持続的発展が可能な社会の実現を担う人材・高級科学技術者の育成	持続的発展が可能な社会の実現を担う人材育成のための環境教育プログラムの策定	①環境教育プログラムをテーマとしたシンポジウムの開催 ②大学案内「環境が学べる」ページの作成	○
2 持続的発展が可能な社会の実現に資する人材・高級科学技術者の育成	環境教育プログラムの実践による持続的発展が可能な社会の実現を担う人材の育成	環境関連科目38科目を通じ、延べ7972名に実施	○
3 体験的環境教育の推進	①エコ・ミュージアムの整備及びQRコード(環境情報発信)による体験的環境教育の普及・推進 ②学外における体験的環境教育の実施	①エコ・ミュージアムの整備 ②環境情報(QRコード)の拡大、発信 ③エコ・ツアーの実施	○
4 環境に関する研究の推進	①教職員、学生の協働による研究の推進 ②環境に関する研究の推進	①「環境分野研究奨励助成金」制度による研究推進 ②研究論文、共同研究等の刊行物での公表 ③卒業研究等における環境関連テーマの推進	○
5 環境コミュニケーションの推進(環境関連情報の発信拠点としての役割と環境マインドの醸成)	環境関連情報の発信とコミュニケーションを通じた環境共生意識の啓発・普及を図る	①環境特別講演会の開催(学生・市民へ公開) ②ホームページ等による環境情報発信 ③「2007NEW環境展」への出展 ④本学環境関連施設見学会の実施	○
6 持続的発展が可能な社会の構築に向けた社会・地域との連携、協働の推進	自治体、諸機関との連携・協働、他大学との交流を図る	①富田町との連携、協働 ②スターリングテクノロジーの開催 ③他大学との交流 ④私立大学環境保全協議会との連携	○
7 環境教育(学生環境推進委員会への支援・コミュニケーションを回り連携を深め、準構成員である本学学生の環境意識を向上させ、環境教育の充実を目指す)	学生環境推進委員会への支援及び学生とのコミュニケーションを回り連携を深め、準構成員である本学学生の環境意識を向上させ、環境教育の充実を目指す	学園祭への参加、講演会、リサイクルショップの開催、学内のばり設置	○
8 電力使用量の削減	予想使用量の1%削減	予想使用量の1.9%減少	○
9 ガス使用量の削減	予想使用量の1%削減	予想使用量の0.6%減少	○
10 上水使用量の削減	予想使用量の1%削減	予想使用量の0.3%減少	○
11 紙使用量の削減	予想使用量の1%削減	予想使用量の1.4%増加	×
12 廃棄物の削減・適正管理	予想排出量の1%減量化、一般廃棄物の資源化率60%以上	予想排出量を2.9%削減、資源化率90.1%	○
13 緑地整備・保全	長期計画に基づく整備・保全	緑地の維持管理、食堂ダイニング緑化	○
14 グリーン調達の積極的な推進	グリーン調達率の向上(関連会社からの購入品調達率55%以上)	グリーン調達率38.6%(金額ベース)、44.9%(数量ベース)	×
15 安全・環境安全な化学物質の使用・保有管理および化学廃棄物の保有・排出管理への改善	安全性向上にむけた施策の策定、実施	講習会、保有管理量の調査実施	○
16 教育・研究施設等の効率的・効果的活用及び管理・運営	施設等実地調査の実施と改善及び施設マネジメント体制の構築検討	教育系部門等の実地調査・改善推進	○
17 労働安全衛生法に基づく安全衛生の向上	安全衛生管理体制の構築	安全衛生管理体制の整備	×

